

20:27 ところが、復活があることを否定するサドカイ人のある者たちが、イエスのところに来て、質問して、

20:28 こう言った。「先生。モーセは私たちのためにこう書いています。『もし、ある人の兄が妻をめとって死に、しかも子がなかったばあいは、その弟はその女を妻にして、兄のための子をもうけなければならない。』

20:29 ところで、七人の兄弟がいました。長男は妻をめとりましたが、子どもがなくて死にました。

20:30 次男も、

20:31 三男もその女をめとり、七人とも同じようにして、子どもを残さずに死にました。

20:32 あとで、その女も死にました。

20:33 すると復活の際、その女はだれの妻になるでしょうか。七人ともその女を妻としたのですか。」

20:34 イエスは彼らに言われた。「この世の子らは、めとったり、とついたりするが、

20:35 次の世にはいるのにふさわしく、死人の中から復活するのにふさわしい、と認められる人たちは、めとることも、とつぐこともありません。

20:36 彼らはもう死ぬことができないからです。彼らは御使いのようであり、また、復活の子として神の子どもだからです。

20:37 それに、死人がよみがえることについては、モーセも柴の個所で、主を、『アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神。』と呼んで、このことを示しました。

20:38 神は死んだ者の神ではありません。生きている者の神です。というのは、神に対し

ては、みなが生きているからです。」

20:39 律法学者のうちのある者たちが答えて、「先生。りっぱなお答えです。」と言った。

20:40 彼らはもうそれ以上何も質問する勇気がなかった。

イエス様の敵対者は、この前はお金や社会的権威との関係で、イエス様を矛盾に追い込もうとしましたが、イエス様は全く違った次元で真理の回答をなさいました。今度は復活という信仰の問題で、イエス様の矛盾を引き出そうとしました。

ここでもイエス様は全く違う次元の答えをなさっています。すなわち永遠の御国では、この世のあり方からはるかに違うことがなされるのです。この世のあり方に制約されることはないのです。

ですからこの世の結婚に制約されることはありません。結婚はすばらしいものですが、永遠の御国での愛はそれをもはるかに凌ぐものだからです。御国における愛は完全なものだからです。

サドカイ人は復活を信じないので、このような質問をして復活の矛盾点を突こうと試みたのですが、イエス様は「神は死んだ者の神ではありません。」と言われました。つまりアブラハムもイサクもヤコブも、神のもとにおいて生きているということです。

歴史上これまでに多くの論客が神様の救いと真理を論破しようと試みましたが、主はそれをことごとく砕かれました。そしてそれ以上の愛で、多くの人がイエス様を信じるに至ったのです。

主の真理に対して、確信と誇りを持ちましょう。また反論する人には穏やかに、愛を持って真理を語りましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

